

保護林再編の追加検討について

平成28年9月 5日

東北森林管理局

林木遺伝資源保存林の追加検討について

7 北小泊ヒバ林木遺伝資源保存林

位置： 金木支署 627と (青森県北津軽郡中泊町) 面積： 3.85ha
 林相： ヒバ・ブナを主体とした天然林 (林齢：190年生、haあたり蓄積：664m3)

保護林区分の検討

本保護林は、ヒバに着目して設定されたものであるが、保護林設定面積が5haに満たず、また、保護林全体のうち、ヒバが優占する範囲は沢筋を中心に全体の半分以下であることからヒバ林の区域は極めて小さい。

さらに保護林に隣接した森林は、ヒバが主体とは言いがたく、したがって周囲を含めても5ha以上のヒバ林面積を確保することは困難である。

一方、当該ヒバ林の保護については、機能類型を引き続き自然維持タイプに位置付けることで十分可能であることから、保護林とはしない考え。



保護林周辺の林相



保護林の樹種別本数の推計

<haあたり換算>

| 胸高直径1cm以上5cm未満 | | | 胸高直径5cm以上18cm未満 | | | 胸高直径18cm以上 | | |
|----------------|-------|-------|-----------------|-------|-------|------------|-------|-------|
| 樹種 | 本数(本) | 割合(%) | 樹種 | 本数(本) | 割合(%) | 樹種 | 本数(本) | 割合(%) |
| ヒバ | 1300 | 100 | ヒバ | 100 | 27 | ヒバ | 640 | 100 |
| | | | ブナ | 125 | 33 | | | |
| | | | コハウチワカエデ | 75 | 20 | | | |
| | | | ハウチワカエデ | 50 | 13 | | | |
| | | | コシアブラ | 25 | 7 | | | |
| 計 | 1300 | 100 | 計 | 375 | 100 | 計 | 640 | 100 |

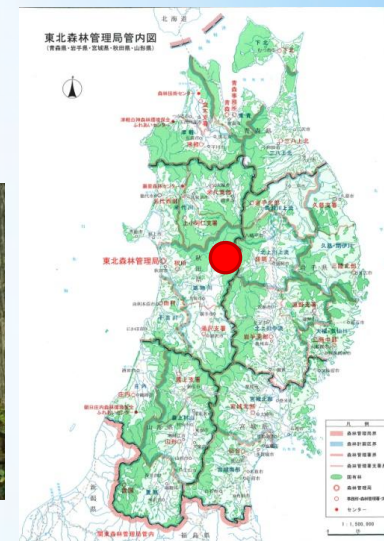
注) H27年度保護林モニタリング調査から推計したもの

34 田沢湖コナラ林木遺伝資源保存林

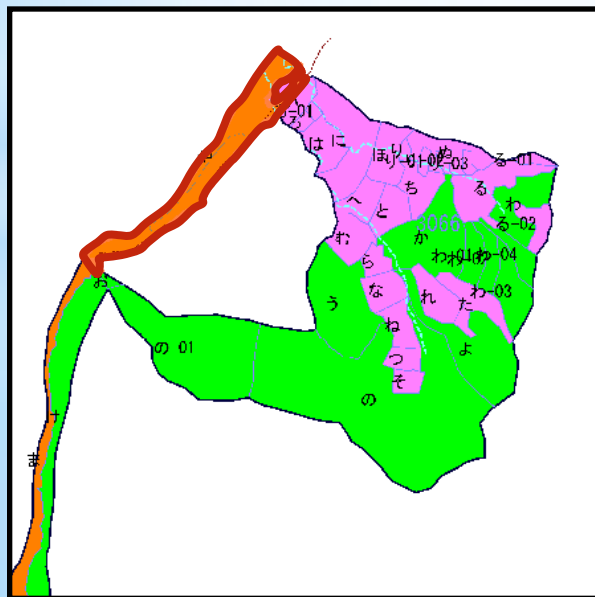
位置： 秋田署 3066や （秋田県仙北市田沢湖田沢） 面積：4.67ha
 林相： コナラを主体とした天然林（林齢：140年生、haあたり蓄積：173m³）

保護林区分の検討

本保護林は、コナラに着目して設定されたものであるが、面積が5haに満たない。しかしながら、本保護林は日本海側東北地方で唯一指定されているコナラの林木遺伝資源保存林であり、その価値は日本全体の中でも重要なものである。また、モニタリングの結果から見ても保護林内の状態は安定しており、自然の推移に委ねても持続性に特段の不安がないと判断されるため、希少個体群保護林とする考え。
 なお、周囲は田沢湖及び民地に囲まれており、コナラ林の拡大の余地はほとんどない状況であるため、本保護林区域のみを希少個体群保護林とする考え。



保護林周辺の林相（樹種別、人天別）



- 保護林箇所
- コナラ天然林（141年生）
- スギ人工林（47～101年生）
- 他広葉樹天然林（45～131年生）

保護林の樹種別本数の推計

<haあたり換算>

| 胸高直径1cm以上5cm未満 | | | 胸高直径5cm以上18cm未満 | | | 胸高直径18cm以上 | | |
|----------------|-----------|-----------|-----------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
| 主な樹種 | 本数 (本) | 割合 (%) | 主な樹種 | 本数 (本) | 割合 (%) | 主な樹種 | 本数 (本) | 割合 (%) |
| オオバクロモジ | 150 | 38 | ウワミズザクラ | 175 | 25 | コナラ | 190 | 78 |
| ウワミズザクラ | 100 | 25 | オオバクロモジ | 125 | 18 | ミズキ | 10 | 4 |
| アブラチャン | 100 | 25 | アカイタヤ | 75 | 11 | アカイタヤ | 10 | 4 |
| コシアブラ | 50 | 13 | ヤマモミジ | 75 | 11 | オヒョウ | 10 | 4 |
| | | | エゴノキ | 50 | 7 | カスミザクラ | 10 | 4 |
| 計 | 400 | 100 | 計 | 500 | 71 | 計 | 230 | 94 |

注) H25年度保護林モニタリング調査から推計したもの

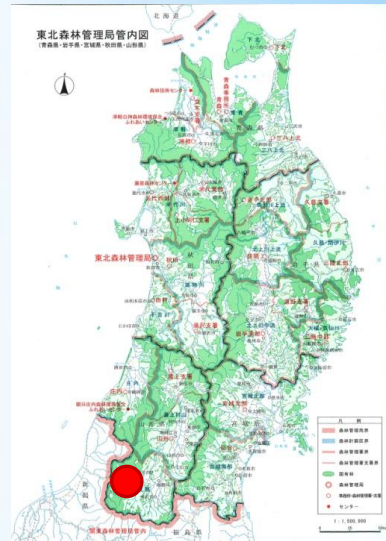
41 田沢頭ウバスギ林木遺伝資源保存林

位置： 置賜署 45さ (山形県置賜郡小国町) 面積： 1.15ha
 林相： スギ、ナラ、ブナ等を主体とした天然林
 (林齢：190年生、haあたり蓄積：192m3)

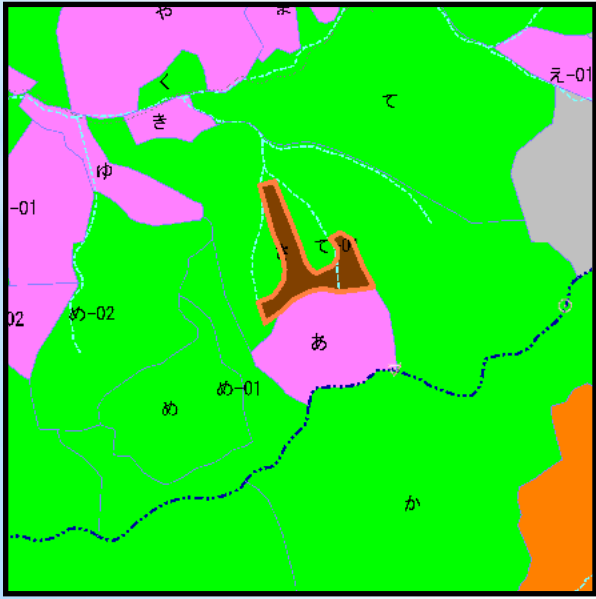
保護林区分の検討

本保護林は、スギに着目して設定されたものであるが、山形県内には本保護林以外にもスギの林木遺伝資源保存林は設定されており、林木遺伝資源保存林の設定の観点からは重複した設定となっている。加えて本保護林は、面積が非常に小さく、低山地帯峰筋の狭小な区域に僅かに群生しているのみである。

こうした状況を踏まえると、定期的なモニタリングが個別に必要となる保護林は設定せず、機能類型を引き続き自然維持タイプに位置付けることにより、自然の推移に委ねる管理経営を行うこととする考え。



保護林周辺の林相 (樹種別、人天別)



- 保護林箇所
- スギ天然林 (187年生)
- スギ人工林 (13~59年生)
- カラマツ人工林 (55~56年生)
- 他広葉樹天然林 (45~131年生)

保護林の樹種別本数の推計

<haあたり換算>

| 胸高直径1cm以上5cm未満 | | | 胸高直径5cm以上18cm未満 | | | 胸高直径18cm以上 | | |
|----------------|-------|-------|-----------------|-------|-------|------------|-------|-------|
| 主な樹種 | 本数(本) | 割合(%) | 主な樹種 | 本数(本) | 割合(%) | 主な樹種 | 本数(本) | 割合(%) |
| ブナ | 800 | 44 | ブナ | 450 | 33 | スギ | 360 | 67 |
| イワガラミ | 200 | 11 | スギ | 400 | 30 | ミズナラ | 80 | 15 |
| オオカメノキ | 200 | 11 | コシアブラ | 150 | 11 | ホオノキ | 30 | 6 |
| オオバクロモジ | 200 | 11 | コハウチワカエデ | 75 | 6 | コナラ | 30 | 6 |
| スギ | 100 | 6 | ミズナラ | 50 | 4 | ブナ | 20 | 4 |
| 計 | 1500 | 83 | 計 | 1125 | 83 | 計 | 520 | 96 |

注) H27年度保護林モニタリング調査から推計したもの

植物群落保護林の追加検討について

11 半城子南部アカマツ植物群落保護林

位置： 久慈支署 14と (岩手県下閉伊郡岩泉町) 面積： 2.09ha
 林相： 主にアカマツからなる天然林 (林齢：130年生、haあたり蓄積：218m³)

保護林区分の検討

本保護林は、南部アカマツの系統をくむアカマツの天然林であり、遺伝資源としては重要であるが、5ha未満であり、希少個体群保護林の面積要件を満たしていない。

周囲に一部アカマツ天然林 (14林班ぬ3小班及びぬ4小班) があり、このうちぬ3小班はアカマツの割合 (材積歩合) が70% (14林班と小班は95%) であることから、保護林の面積拡大の候補地にはなり得る (ぬ4小班は40%で林相がかなり異なる)。しかしながらこれら二つの小班を合計しても林地面積は3.65haにしかならず、かつ区域は狭長であり、その上、これら小班の中を県道が通っているため、林分はさらに小さく分断されている状況にある。

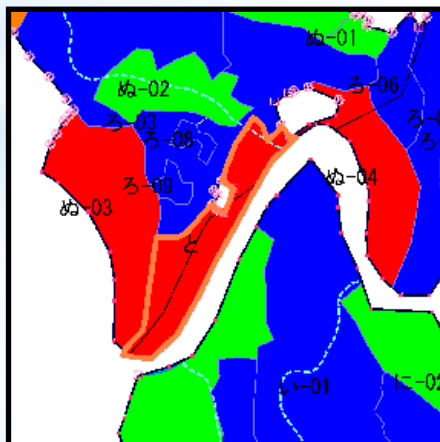
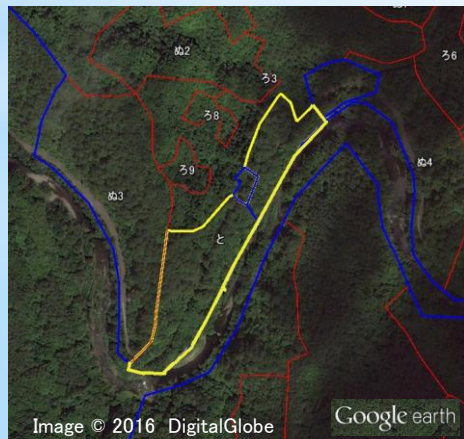
このため、保護林を核として5ha以上のアカマツ天然林を確保することは困難な状況である。

一方、南部アカマツの系統をくむアカマツの保護林は岩手県内でも複数ある。

これらのことを総合的に判断し、同林分は保護林の設定はせず、機能類型を引き続き自然維持タイプに位置付けることにより、アカマツの保護を図りつつ管理経営を行うこととする考え。



保護林周辺の林相 (樹種別、人天別)



- 保護林箇所
- アカマツ天然林 (119~139年生)
- アカマツ人工林 (53~56年生)
- カラマツ人工林 (57年生)
- ミズナラ天然林 (76~90年生)
- 他広葉樹天然林 (54~139年生)

保護林の樹種別本数の推計

<haあたり換算>

| 胸高直径5cm以上18cm未満 | | | 胸高直径18cm以上 | | |
|-----------------|--------|--------|------------|--------|--------|
| 主な樹種 | 本数 (本) | 割合 (%) | 主な樹種 | 本数 (本) | 割合 (%) |
| ヤマモミジ | 175 | 21 | アカマツ | 150 | 44 |
| コナラ | 150 | 18 | コナラ | 90 | 26 |
| ハクウンボク | 125 | 15 | オオヤマザクラ | 30 | 9 |
| ウリハダカエデ | 100 | 12 | アカシデ | 20 | 6 |
| アカシデ | 50 | 6 | アサダ | 20 | 6 |
| タカノツメ | 50 | 6 | ミズナラ | 20 | 6 |
| 計 | 650 | 79 | 計 | 330 | 97 |

注) H27年度保護林モニタリング調査から推計したもの

再編区分を追加検討したもの

37 鳥海ブナ林木遺伝資源保存林

【鳥海ブナ林木遺伝資源保存林】

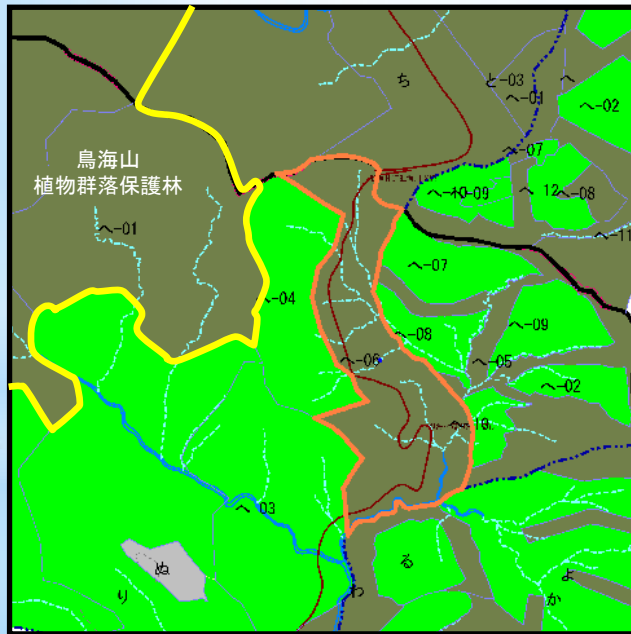
位置：庄内署 1022へ6（山形県酒田市升田） 面積：21.20ha
 林相：ブナを主体とする広葉樹林（林齢：183年生、ha当たり蓄積：276m³）

保護林区分の検討

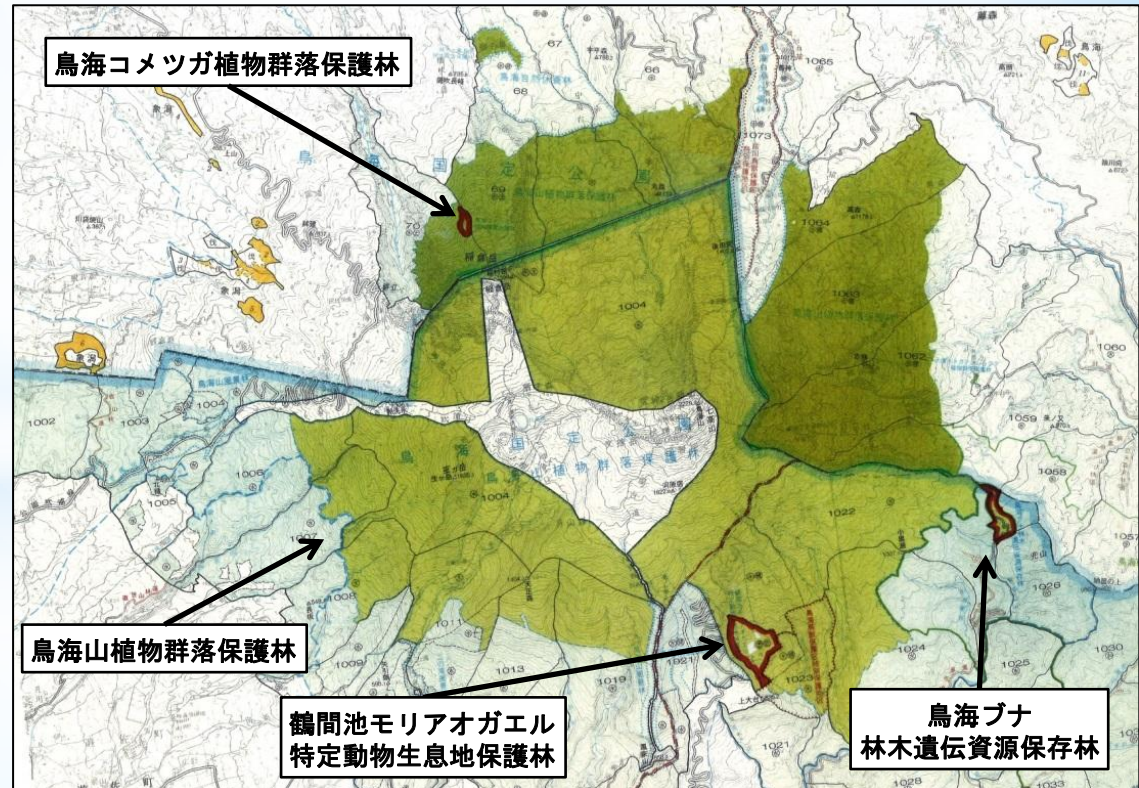
本保護林は、ブナ天然林の保護を目的として設定されている。
 一方、本保護林は鳥海山植物群落保護林の東端に近接して位置しており、相近接する林分はブナが優占するなどほぼ同質の森林であると考えられることから、鳥海山植物群落保護林と統合し一体的な保護林（生物群集保護林）とする考え。



鳥海ブナ林木遺伝資源保存林周辺の林相（樹種別、人天別）



- 鳥海ブナ保護林箇所
- 他広葉樹天然林 (18~96年生)
- カラマツ人工林 (51年生)
- ブナ天然林 (163~183年生)



鳥海コメツガ植物群落保護林

鳥海山植物群落保護林

鶴間池モリアオガエル特定動物生息地保護林

鳥海ブナ林木遺伝資源保存林

39 山の内スギ林木遺伝資源保存林

59 山の内スギ植物群落保護林

【山の内スギ林木遺伝資源保存林】

位置：最上支署 2201ほ（山形県最上郡戸沢村）

面積：12.86ha

林相：スギの壮齢木、ミズナラ、ブナからなる針広混交林
（林齢：173年生、haあたり蓄積：257m³）

【山の内スギ植物群落保護林】

位置：最上支署 2199と外（山形県最上郡戸沢村）

面積：242.96ha

林相：ブナ、スギからなる針広混交林
（林齢：173年生、haあたり蓄積：170m³）



保護林区分の検討

両保護林は、スギ天然林の保護を目的として設定されている。

いずれも希少な個体群を保護対象としており、希少個体群保護林の面積要件5ha以上を満たしている。

一方、山の内スギ林木遺伝資源保存林と山の内スギ植物群落保護林は隣接しており、スギの占有率は異なるものの、天然スギを保護するとの目的は共通であることから、両保護林を統合し一体的な保護林（希少個体群保護林）とする考え。

保護林の樹種別本数の推計

山の内スギ林木遺伝資源保存林

<haあたり換算>

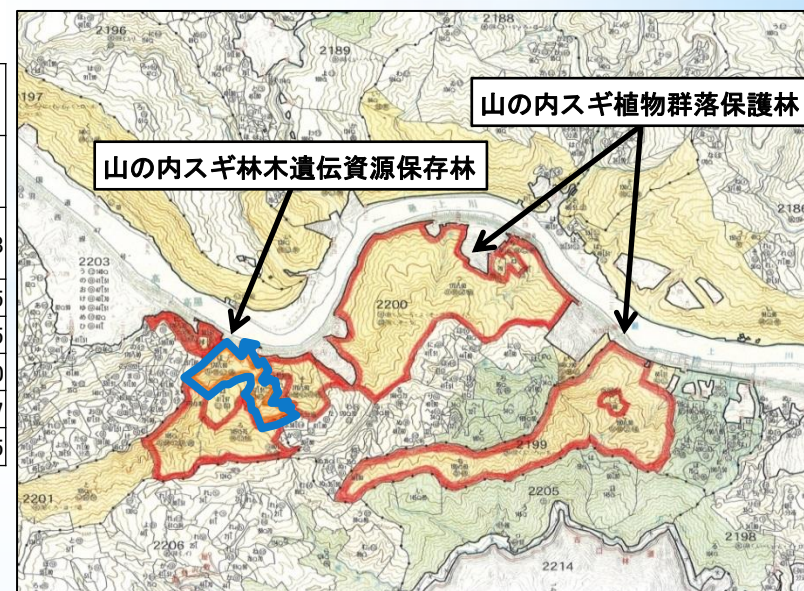
| 胸高直径 5cm以上18cm未満 | | | 胸高直径 18cm以上 | | |
|---------------------|-----------|-----------|----------------|-----------|-----------|
| 主な樹種 | 本数 (本) | 割合 (%) | 主な樹種 | 本数 (本) | 割合 (%) |
| アブラチャン | 200 | 38 | スギ | 90 | 60 |
| フジ | 150 | 29 | フジ | 20 | 13 |
| ハチクワカエデ | 150 | 29 | ホオノキ | 20 | 13 |
| スギ | 25 | 5 | ハチクワカエデ | 10 | 7 |
| | | | ブナ | 10 | 7 |
| 計 | 525 | 100 | 計 | 150 | 100 |

山の内スギ植物群落保護林

<haあたり換算>

| 胸高直径 5cm 以上18cm未満 | | | 胸高直径 18cm以上 | | |
|----------------------|-----------|-----------|----------------|-----------|-----------|
| 主な樹種 | 本数 (本) | 割合 (%) | 主な樹種 | 本数 (本) | 割合 (%) |
| 材ハコダイ ジュ | 25 | 18 | ブナ | 85 | 28 |
| ブナ | 25 | 18 | スギ | 75 | 25 |
| ウラジロノキ | 25 | 18 | ハリエンジュ | 45 | 15 |
| ウミズグサ | 13 | 9 | ホオノキ | 30 | 10 |
| ミズキ | 13 | 9 | ミズキ | 20 | 7 |
| 計 | 100 | 73 | 計 | 255 | 85 |

注) H25年度保護林モニタリング調査から推計したもの

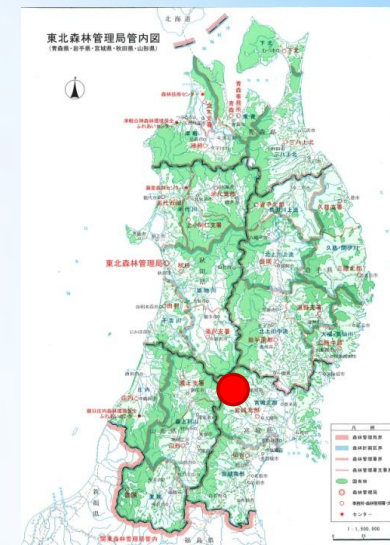


66 栗原千年クロベ植物群落保護林

位置： 宮城北部署 43い (宮城県栗原市) 面積： 40.15ha
 林相： ネズコ (クロベ) 及びブナを主体とする天然林
 (林齢： 219年生、 haあたり蓄積： 200m³)

保護林区分の検討

本保護林は、ネズコ及びブナを主体とする原生的な天然林となっている。一方、本保護林は、栗駒山森林生態系保護地域の保全利用地区に隣接しているが、それとの境には明瞭な地勢界がなく、ネズコのまとまった群落があるものの、自然の推移に委ねる観点からは二つの保護林を区分して管理する必要性は低いことから、本保護林を森林生態系保護地域 (保全利用地区) に含め、一体的に管理する考え。



保護林周辺の林相 (樹種別、人天別)

